

三陸沿岸道路（高田道路）の開通後の
交通状況、効果についてお知らせします
～利用交通量が安定、物流の輸送路として貢献～

東日本大震災からの復興に向けたリーディングプロジェクトとして三陸沿岸道路、釜石花巻道路の整備を進めています。
このたび、高田道路（開通3ヶ月後）の交通状況及び効果について、取りまとめましたのでお知らせします。

高田道路開通後3ヶ月後交通状況（平成26年3月23日開通）（別紙参照）

①開通区間の交通量が安定。既開通区間の大型車交通量は増加。

・開通区間（陸前高田IC～通岡IC）の交通量が安定。

3ヶ月の平均交通量（平日）は、約5,800台で横ばい。

・既開通区間（通岡IC～大船渡碁石海岸IC）の交通量は約2割増。

うち平日大型車交通量が約4割増加。

②鮮魚、農作物の輸送に貢献

カーブや凹凸の少ない高田道路の利用により、輸送時間短縮や荷崩れの不安がなくなり、鮮魚、農作物の輸送に貢献。

【発表記者会】

岩手県政記者クラブ、釜石記者クラブ、宮古記者クラブ、大船渡記者クラブ、東北専門記者会

問 い 合 わ せ 先

国土交通省 南三陸国道事務所

〒026-0301 釜石市鶴住居町第7地割13-7（代表）電話：0193-28-4731

副 所 長 山口 満（内線204）

調査・品質確保課長 高橋 朋昭（内線411）

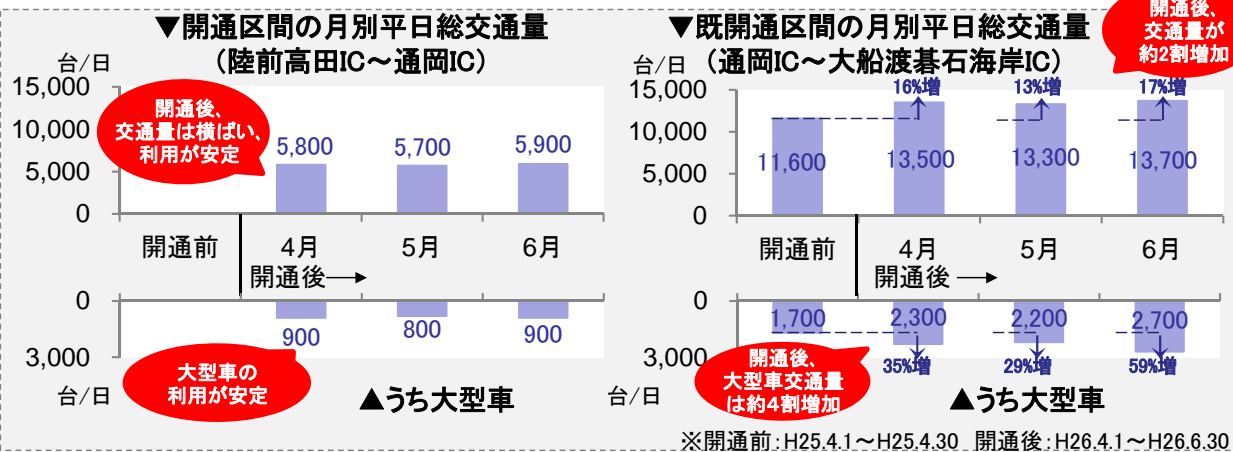
南三陸国道事務所のホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/minamisariku/index.html>

【開通3ヶ月後】三陸沿岸道路 高田道路 りくぜん たかた かよおか 陸前高田IC～通岡ICが開通して (平成26年3月23日開通)

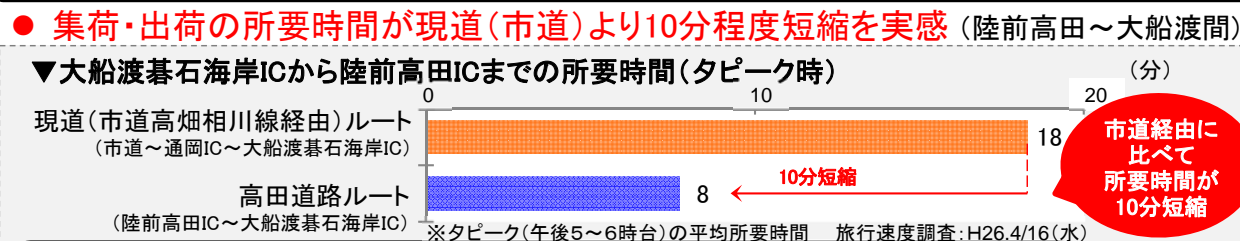
- ①開通区間の平日交通量が安定
既開通区間の平日交通量は全体で約2割増、うち大型車で約4割増加
- ②輸送時間短縮や荷崩れの不安がなくなり、鮮魚・農作物の輸送に貢献



①開通区間の平日交通量が安定(平均5,800台/日) 既開通区間の平日大型車交通量は約4割増加、物流路として貢献



②東京市場への鮮魚輸送や、地域内の農作物の輸送路として貢献



- 現道(市道)を利用していたときは、カーブや凹凸など影響で「苗の容器」が割れるなどの荷痛みが激しかった。カーブや凹凸の少ない高田道路を利用することで、荷痛みを防ぎ納品でき、品質の維持及び顧客満足度の向上に繋がっている。
- 「苗」の荷痛みが少なくなり、余裕をもって運搬できるのでドライバーの気苦労(ストレス)の軽減効果が大きい。
- 高田道路を利用することで10分くらい時間短縮でき、定時性が確保され、「苗」の品質維持に繋がっている。
- 現道(市道)を利用していたときは、カーブ・凹凸の影響で「魚を積む箱」が振動で穴が空き、海水が漏れ、鮮度を下げることがあった。高田道路は、カーブ・凹凸が少ないことから「魚を積む箱」に穴が空くことがなく、商品価値を下げずに鮮魚を出荷することに繋がっている。
- 東京市場へ午前2時に到着しなければならないため、夕方6時に出発している。高田道路を利用して一関・若柳金成IC経由で運搬することで、現道(市道)の混雑を回避でき時間短縮を実感している。



①高田道路(開通後)



H26.8.11撮影
撮影箇所: 陸前高田IC付近

②大船渡魚市場(積荷の状況)



H26.7.4撮影
撮影箇所: 大船渡魚市場